

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年8月調査結果-

2010年9月10日

調査要領

- 調査期間 2010年8月17日～23日
- 調査対象 200社
- 回答企業 128社
- 回収率 64.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）
業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より7.5ポイント悪化の▲39.8。

平成7年4月調査開始以来185カ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では卸売業が回復となった。

※向こう3カ月の先行き見通し業況DIは▲50.8と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、製造業・卸売業・小売業の3業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
業況	▲58.5	▲37.8	▲34.1	▲40.5	▲32.3	▲39.8	▲50.8
売上	▲30.5	▲20.0	▲22.5	▲23.7	▲21.0	▲28.9	▲39.1
採算	▲33.1	▲29.6	▲21.7	▲29.0	▲26.6	▲34.4	▲46.9
仕入単価	▲17.8	▲34.1	▲27.9	▲26.0	▲31.5	▲21.1	▲14.8
従業員	▲12.7	▲7.4	▲9.3	▲8.4	▲12.9	▲9.4	▲12.5
資金繰り	▲26.3	▲16.4	▲12.4	▲13.0	▲14.5	▲20.3	▲28.9

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
建設	▲68.0	▲50.0	▲42.9	▲51.7	▲50.0	▲60.7	▲57.1
製造	▲58.3	▲22.6	▲19.2	▲26.9	▲4.1	▲25.9	▲40.8
卸売	▲40.0	▲28.1	▲17.3	▲39.3	▲19.2	▲14.8	▲33.3
小売	▲50.0	▲34.8	▲33.4	▲37.5	▲29.2	▲29.2	▲54.1
サービス	▲77.3	▲61.9	▲63.6	▲45.9	▲59.1	▲72.8	▲72.7

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間工事物件の動きが無く、予想が立てられない状況となっている。 ・ 依然として工事の発注が無い状況が続いている。先行きが全く見えず不安である。 ・ 工事部門を縮小した後に仕事があっても、技術者がいないので出来ない。しかし公共工事は今後も衰退するものと思われる。 ・ 新築獲得は厳しい動向に入っている。独自性ある方向付けが企業に求められるが顧客の絶対数がなく、経営は一層の効率化を追求せざるを得ない。 ・ 昨年よりは回復してきているが、まだまだ従業員は過剰であり、仕事が足りない状況。 ・ 民主党政権下、公共工事の削減により受注大幅に減少。売上が減少し採算も悪化。今月の業界の業況はますます悪化している。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受注状況は昨年と比較すると、やや回復してきている。9月に中国上海の展示会に初出店する。中国市場での評価に期待したい。 ・ 仕事の量は少な目。材料価格も値下げの局面へと変わりつつあるが、冬にむけて量の確保を急いでいる。 ・ じわりじわりと売上が減少してきている。先行きは不安ではあるが体制を組み直していきたい。 ・ 業務用中心のため、売上・利益率とも変わらず推移。ただ、原油価格が徐々に上昇傾向となっている。今後は新規の取引が決定し、好転の気配あり。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業況は例年通りで依然厳しいものを感じる。今月位から冬先にかけて、売上が伸びて来る時期にはなってきたが、どうなるかは不透明である。 ・ 天候不順、地域温暖化などから農産品・水産品の収穫減少の中で、売上・利益ともに厳しさが増している。 ・ 今月期は当社の決算期であり、昨年と比較すると2,000万程度の売上UPだが、不良債権の発生もあり厳しい決算になる。業況としては厳しい状況が続くが、この状況が普通であるとの認識をし、営業活動を活発化していくことが必要だと感じる。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両の購入や、高速道の無料化の拡大により、盆休暇利用による石油製品の消費が前年より増加したが、業務用・輸送用の大口需要は減少している。為替円高の影響は出ていないが、今後の課税や冬季燃料については、全く不安定要素の様相となっている。 ・ 9月末までのエコカー補助金の効果で、受注は前年比107%である。ただし、メーカーも生産を調整しており、9月末までに補助金を伴った登録ができる車両は、かなり少ない状況となっている。登録は受注残により、120%程度となる見通し。 ・ サマーセールも終わり、例年この月から秋冬の新品に移行していくが、今年は連日気温の高い日が続く単価の低い盛夏アイテム以外の動き悪く厳しい状況。またお盆の帰省客の来店も前年に比べ、少なかったのも厳しい要因の一つ。 ・ 新築・リフォーム等、現況は増加傾向にあるものの、仕入単価微増により利益確保が難しい状況である。 ・ 安価な商品は輸入物が多いため、多少仕入れ単価に影響がでる可能性がある。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路無料化により乗客大幅減。事故や渋滞の多発に伴い、さらなる減少を予想せざるを得ない。 ・ 夏休み期間となり、例年並みに国内の観光目的のお客様は動いている。しかし海外からの受け入れ、特に中国の受け入れを行い、単価が下降している。韓国からの送客も昨年より増加している。高速道路無料化の影響と思われる、車での来館は増加しているが、3世代での予約に対し大型レンタカー1台と、小グループの宿泊が目立った。 ・ 本来暑いと売上が伸びるのだが、低調となった。10月からの最低賃金UPは言語道断であり、従業員を減らすことを検討している。 ・ 盆休期間も人は動いたが単価は下落し売上も伸びず。国内景況判断指数が2ヶ月連続上昇との見方があるが、景気回復には程遠い感がある。 ・ 依然、公共事業の発注量が減少している。また入札価格の競争が激化しており、採算の悪化が心配される。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	仕入単価 DI3.6 ポイント回復。売上 DI21.5 ポイント、採算 DI10.7 ポイント、従業員 DI3.5 ポイント、資金 DI14.3 ポイント悪化、総じて業況 DI も 10.7 ポイント悪化となった。業種別では総合工事 13 ポイント回復。設備その他 40 ポイント、建築業 7 ポイント悪化となった。新築獲得は厳しい動向に入り、独自性ある方向付けが企業に求められるが顧客の絶対数がなく、経営は一層の効率化を追求せざるを得ないとの声も寄せられている。
製造業	仕入単価 DI13.0 ポイント、従業員 DI8.8 ポイント回復。売上 DI14.8 ポイント、採算 DI10.6 ポイント、資金 DI13.8 ポイント悪化、総じて業況 DI も 21.8 ポイント悪化となった。業種別では食料品 40 ポイント、印刷出版 17 ポイント、家具木材 2 ポイント、金属窯業他 22 ポイント悪化となった。じわりじわりと売上げが減少してきており、先行きは不安ではあるが体制を組み直していきたいとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI18.5 ポイント、採算 DI3.4 ポイント、従業員 DI3.2 ポイント悪化。仕入単価 DI23.9 ポイント、資金 DI0.2 ポイント回復、総じて業況 DI も 4.4 ポイント回復となった。業種別では、機械鋼材 12 ポイント悪化。繊維 33 ポイント、食料品 11 ポイント、その他 4 ポイント回復となった。昨年と比較すると売上は UP だが、不良債権の発生もあり業況としては厳しい状況が続き、営業活動を活発化していく事が必要との声も寄せられている。
小売業	売上 DI29.1 ポイント、採算 DI8.4 ポイント、仕入単価 DI4.1 ポイント、従業員 DI8.3 ポイント、資金 DI8.3 ポイント回復。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、家電時計他 41 ポイント回復。衣料品 33 ポイント、食料品 19 ポイント悪化。自動車横ばいとなった。車両の購入や高速道無料化の拡大により、石油製品の消費が前年より増加したが、業務用・輸送用の大口需要は減少しているとの声も寄せられている。
サービス業	仕入単価 DI9.1 ポイント、従業員 DI9.1 ポイント回復。売上 DI13.6 ポイント、採算 DI27.3 ポイント、資金 DI9.0 ポイント悪化、総じて業況 DI も 13.7 ポイント悪化となった。業種別では、クリーニング 50 ポイント、その他 25 ポイント回復。運送横ばい。ホテル 20 ポイント、飲食 67 ポイント、整備業 42 ポイント悪化となった。高速道の無料化により、乗客大幅減。事故や渋滞の多発に伴い、さらなる減少を予想せざるを得ないとの声も寄せられている。